

山口県の青少年自然体験活動推進事業「心の冒険・サマースクール」

発表者

ワークショップ I-① 大田 一夫（下関市立熊野小学校 校長）

山口県教育委員会では、世界的な野外教育機関であるOBS (Outward Bound School) の教育手法導入のため、平成元年にアメリカ合衆国メイン州のハリケーンアイランド校からディレクターを招聘し、その後 10 回にわたって現職教員を派遣して現地で研修をさせながら、独自にこの手法を活用し、長期にわたる自然体験活動の指導者の養成に努めてきました。これまでに、のべ 300 人以上の指導者（主に教職員及び行政職員）が、事業を支えるスタッフとして関わり、参加者の自律性を尊重するとともに、カウンセリングやミーティングを効果的に用いてグループ全体と個人の成長を支援していく力を身に付けてきました。

平成 5 年からは、本格的に県内の小・中・高校生を対象とした青少年自然体験活動推進事業を実施してきました。この事業は約 30 年経った現在も『心の冒険・サマースクール』として継続しており、これまでにのべ約 2,700 人の子どもたちが参加し、「自己肯定感」「他者との信頼関係の構築」「自然や人に対する感謝の念の育成」等の学びを得てきました。本プログラムは体験することを直接の目的とせず、プログラムは手段であるという視点に立って、子どもたちの生きる力を育み、その力を実生活の中に生かすことを目的としています。また、毎年ではありませんが親のコースも開設され、子どもと親が同じ体験を共有することや親としてもう一度自身を振り返る機会となりました。本事業は、下表のように、各プログラムをフェーズごとに区切り、ねらいをもたせていることが大きな特徴です。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
OBS 的 観点による 基本的フェーズ	①トレーニング			②エクスぺディション		③ファイナルエクスぺディション		④コンクルーディング	
	自然の中での基本的な生活技術を習得する。			様々な冒険を体験しながら自分や仲間と向き合う。		グループの責任で冒険し、大きな達成感を味わう。		日常生活で効果が持続するよう体験の内面化を図る。	
プログラム例	ダッフルシャッフル バックパッキング			ソロ ロッククライミング		ファイナルツアー ピークアタック		個人ラン クリーンアップ	

さらに、スタッフ養成と研修を兼ねて、外郭団体として山口県青少年自然体験活動研究会（YSSK）を立ち上げ、支部毎にカヌーやダイビング、コンパスワークなどの自主研修等も活発に行っています。

ワークショップ ～進化の足跡～ では、これまでの山口県の取組の歴史を知ってもらうとともに、実際に現地でどんなトレーニングを受けてきたかについてお伝えします。（かなり昔のことですが…）また、非日常である冒険プログラムを日常である学校生活にどうつなげているかをご紹介します。AFPY (Adventure Friendship Program in Yamaguchi) というプログラムで、これはスタッフが学校教職員メインの山口県の強みでもあります。



ワークショップ ～心の冒険 サマースクールの今～ では、現在のサマースクールの現状をVTR等もお見せしながら紹介します。また、プログラム中に実際にインストラクターが遭遇する様々な課題「こんなとき、どうする？」について、ロールプレイング等を通して、体験的な協議を行います。皆さんの協議内容を本事業に反映し、プログラムの更なる充実につなげていけたらと思います。

